16：30 ゼンダー門
THE LEGEND OF HEROES
閃の軌跡
原作：日本ファルコム（『英雄伝説 閃の軌跡』）
脚本：恵村まお
漫画：さがら梨々
第13話
おお！やっと到着したか
中将 ご無沙汰しています
うむ 数ヶ月ぶりになるか
士官学校の制服もなかなかサマになっているではないか
どうやら帝国正規軍の将官の方みたいね…？
ああ 中将という事はこの門の責任者なんだろうな
ふむ そしてそちらがⅦ組の仲間というわけか
フフ 噂には聞いていたが面白い顔ぶれが集まっているようだ
あっ…よ よろしくお願いします！
帝国軍第三機甲師団長ゼクス・ヴァンダールだ
以後よろしく頼む
！《隻眼》のゼクス…！
アルノール家の守護者か…！
《ヴァンダール》といえば皇族・アルノール家を守護する武門の一族として有名だ
そして《隻眼》のゼクスといえば帝国正規軍で5本の指に入る名将とも聞き及んでいる
ラウラの《アルゼイド流》と並ぶ帝国における武の双璧…
そのお目にかかれて光栄です
ハハ そう大層な人間ではないのだが

おぬしたちの話も聞きたいがさすがに時間も時間だ
今日中に帰るつもりならすぐに出発した方がいいだろう
例のものは用意してあるぞ
ご好意感謝いたします
このくらいどうという事はないおぬしは私の命の恩人だからな
恩人…？
一年前私がゼンダー門に異動になった際にノルド高原を探索していたら狼型魔獣の群れに囲まれてな
そこへ十字槍を持ち馬に乗った彼が現れ魔獣を追い払ってくれたのだ
へぇ…そんなことが
かっこいいわね…
そんな大げさな話ではないんだがな
…でもその縁があって
俺は士官学院の推薦を受けられることになったんだ
そうだったんですか…
さあ 例のものは外に用意してある
アレを使えば集落まで一時間ほどだ
ギィ…
風と女神の加護を
凄いな…とんでもない解放感だ
ええ…！まるで風になったみたい！

大丈夫？エマ
はは はい…ちょっと怖いですけど
しかし馬術部の連中に羨ましがられそうな体験だな
確かに
オレの故郷は北東…あちらの山脈の方角に向かった先にある
日没までに何とか辿り着くとしよう
わぁ…
これがガイウスの故郷か…
お家が布でできているのですね
ああ 移動式の住居でな
夏から秋にかけては北へ移動するのが常だ
さて まずはオレの実家に…
あんちゃん！ガイウスあんちゃん！
あんちゃゃああああん！
わぁ…！
かっ可愛いっ…！

ガイウスお兄ちゃん…!おかえりなさいっ……!
ただいまリリシーダ
トーマも元気そうだな
へへあんちゃんこそ
はは…すごく慕われてるな
ええ…一人っ子には目の毒ね
……
フフ……良き友に恵まれたようだな
父さん母さん!
お母さん!?
お帰りなさいガイウス
皆さんも初めましてガイウスの母ファトマです
ガイウスの父ラカン・ウォーゼルだよろしく頼む士官学院の諸君
はは い!こちらこそ

……
何というか…色々と恵まれている男だな
そうね…優しそうなご両親に可愛らしい兄弟たち か…
それと高原の雄大な自然…
そういった環境がガイウスさんの悠然とした所を育んだのかもしれませんね
ああ…
そうだろうな
客人用の住居を離れに用意しておいた
じきに日も暮れる今夜は我が家でゆっくり休んでくれ

ピーヒョロロ…
メェェ…
メェェー
メェー
メェェ…
もぞ…
ん……
羊…？
ここは…
そうか
ノルド高原
だったか…
――早いな
リイン
おはよう
ガイウス――
って
その格好は…？
ああ 羊の放牧を
久々に手伝って
きたんだ
そろそろ
朝餉の支度も
出来ている頃だ
皆 朝だぞ
起きるがいい
ん……
ここは…？
羊の…
鳴き声…？
もぞもぞ…
えっと
眼鏡… 眼鏡…
ゴソゴソ…
あむ
ぱあっ
美味しい…！

…染み入る味だな
ミルク粥……みたいなものでしょうか?
えとえと羊の乳と塩漬け肉を使った朝粥です
それは妹たちが用意したんですよ
リリも手伝った!
へえ大したものだな
昨晩の食事もそうでしたがどれも凄く美味しいです
ああ…どの品もとても美味しく頂いている
ふふっ…気持ちのいい子たちね
いい風の導きがあったみたいだな
ああ…おかげさまで

このノルドの地はある意味 とても自由な場所だ
帝国人である君たちには新鮮であり不便でもあるだろう
だが そんな場所であっても君たちと関係がないわけではない
士官学院を創設したドライケルス大帝…ですね
《獅子戦役》においてこの地で挙兵した逸話ですか
ああ ノルドの民の間でも伝承として語り継がれている
戦役が終わった後ノルドの民は彼の継いだ帝国と長きに渡る友情を誓い合った
その善き関係が今日に至るまで続いているというわけだ
なるほどノルドの地は正確には帝国領ではない……
共に友情を誓い合った隣人同士というわけですね
ああ
しかし昨今《カルバード》という東の大国が高原の南東に進出してきた
東に住む一族などは交流を深めているようだが……どうやらそれが少しばかり緊張をもたらしているようだな

…帝国と共和国は昔ながらの宿敵同士ですから
ここ数年直接的な戦争こそ起きていませんけど…
政治・経済的な対立はむしろ深まっていますね
つい最近もクロスベルで大きな事件が起こったようだが…
その背景にも帝国派と共和国派の対立関係があったと聞いている
そうみたいだな……
……
まあとはいえノルドは双方にとっても辺境の地だ
監視塔なども建っているが さほど心配する必要はないだろう
あまり気にせずに《特別実習》に集中するといい

えっと先に人探し…でいいんですよね?
ああ 実習の予定にはなかったが
早朝に集落を出たまましばらく戻って来ない観光客…
この辺は魔獣も出ることだし早めに見つけた方がいいだろう
カメラマンだそうだけどこの自然を撮りたくなるのもわかる気がするわね
しかし…こう広いと方向感覚が曖昧になってくるな
そうだな一応目印となる地形を教えておこうか
あれは《三角岩》…この一帯の中心になっている
そしてあれは《監視塔》…帝国軍が建てた施設だ
ノルド高原の南東共和国方面を監視するための施設と聞いている

《カルバード共和国》…
あちらの石柱は…？
人の手で建てられているみたいですが
クロスベル方面だけじゃなくこちらも繋がっているんだな
ああ この高原にはああいったものがあちこちに点在していてな
どうやら千年以上前にあった巨石文明の遺跡らしい
巨石文明…
帝国にも残っている精霊信仰の遺跡のようなものか
遺跡…カメラマン…
そうか…あそこに居る可能性が高いな
あそこ…？
ああ ノルド高原の《守護者》だ

パシャ
いやぁ～これは素晴らしいな…！
パシャ
感光クオーツが足りるかなぁ…
えっ…と
あなたがノートンさん…ですか？
ん？君たちは…？
ふむ…集落の人たちには心配をかけてしまったみたいだな
わかったさっそく戻ろう！
…と言いたいところなんだがまだ写真を撮り終えていなくてね
ちょっと待ってくれないかな？
ま、まぁ気持ちはわかりますが…
…確かにすごいですよね

この巨像は…
ザァ
さっきの石柱も巨大さに圧倒されたけど…
正直段違いの迫力だわ
そうですね ここまでの遺跡他では見られないでしょうし

いや 他の場所にもこれと似たような巨像があるにはあるんだよ
大陸西部にある《ブリオニア島》という所にね
まあ そちらも詳しい謂れはわかっていないそうだが……
僕はまさにそういう遺跡の写真をスクラップしていてね ノルドに来たのもここの取材のためなのさ
《ブリオニア島》…！ B班が行っている場所だわ
ふむ… ノルド以外にもこのようなものがあるとはな
B Group
……
この巨像…ノルドでは《守護者》だと言われてるんですよね？
ああ その通りだ
古の時代 祖先たちが東からやってきた時には既に高原にあったらしい
そして その許しを得てこの地に根付いたという伝説が残されている
ふむ…
俺はこの巨像を見た時『巨いなる騎士』の言い伝えが真っ先に思い浮かんだが

『巨いなる騎士』…
どこかで聞いた事がある気がするな
中世——かの《暗黒時代》から帝国各地に伝わる謎の言い伝えだ
『戦乱の世に《焔と共に輝き甲冑をまとい巨大な騎士》が現れて 戦を平定する——』
地域によって異なるが基本的にそういった内容だな
なるほど 確かにこの《守護者》の巨像にも通じた話ではあるようだ
もしかすると 何か関係があるのかもしれないな…
……
巨いなる騎士…か…
ドクン
!!
…リィン? どうしたの?
……
いや……なんでもない
今のは…?
……
いやー送ってくれてありがとう!
おかげさまで念願の写真もたくさん撮影できたよ
とにかく無事に戻れてなによりだった
…なんだ? あれは…
導力車…
もしかして事故…!?

アムルさん！何があった!?
ああ…ガイウスか
運搬車で材木を集めに出ていたんだが
戻ってきたところでなぜか急にハンドルが重くなってしまってな
ブレーキは効いたから大事には至らなかったが人気のない場所で幸いだったよ
そうか…無事でよかった
…ふむなるほどね
アリサ？
？
…えーっとどれどれ…
ケほ
ケほっ
……
!?
アリサ…わかるのか？
まこのくらいはね
さすがRFグループの関係者といったところか
あれだけ家出少女を気取っておいて殊勝なものだが
よっ 余計なお世話よ！
……なるほどね
どうやらエンジン周りの結晶回路の接触不良が原因みたい
ハンドルが重くなったのもこのあたりが影響でしょうね
そ そうだったのか……
直すには専門の技術者を呼んだほうがいいと思うけど……
ゼンダー門あたりに問い合わせるしかないかしら
フフ…なるほど見事な手並みのようだ
父さん長老…！

アリサが思い当たった「ご隠居」の正体とは……？

THE LEGEND OF HEROES
閃の軌跡
原作：日本ファルコム（『英雄伝説 閃の軌跡』）
脚本：恵村まお
漫画：さがら梨々
第14話
綺麗な湖だな…
ええ 日の光が水面に反射して…
ここが《ラクリマ湖》だ ご隠居はこの小屋に住んでいる
なかなか優雅な暮らしをしているじゃないか
さっそく訪ね…
ガチャ
おお ガイウス
ご隠居！
半年ぶりくらいじゃの
ご無沙汰しています
え…
それとアリサ
直接会うのは5年ぶりになるかな？
おおお……お祖父様っ!!
どうしてこんな所にいらっしゃるんですかっ!!?
…まあ見当は付いておるじゃろうが
あらためて自己紹介といこうか

グエン・ラインフォルト
そちらのアリサの祖父にあたる
よろしく頼むぞい
しかし5年も経つと見違えるほど成長したの〜
背はもちろんじゃが出てるところも立派に出て
お祖父様!
今までどうしてたんですか?
ルーレからいなくなって…
どれだけ私が心配したと思ってるんですか!?
一応季節ごとには便りを出しておったじゃろう?
お前がシャロンちゃんに預けた手紙をいつもちゃあんと読んでおるしな
だ だからって5年も前からずっとここで…?
いや 1年の半分くらいは帝国に戻ったり大陸各地の知り合いの所に遊びに行っておるよ
そのグエンさん
どうやら俺たちの実習についてもご存知みたいですけど…
そう言えば…まるで俺たちが来るのを知っていたような様子だったな
ふふ 実習の期間中お前さんたちが訪ねてくるだろうとは思っていたよ
イリーナの連絡にもあったしな
!?
か 母様と今でもやり取りを…!?
まあ必要最低限じゃが
やれやれ 我が娘ながらどこをどう育ったらあんな仕事中毒(ワーカホリック)になるのやら
……

さて コーヒーも飲み終えたし導力車の修理に向かうとするか
ガタッ
リィンと言ったか—— 馬の後ろに乗せてもらえるかね？
……
ちらっ
——あの グエンさん どうして今までアリサに所在を教えなかったんですか？
ふむ… なあ リィン君
お前さんから見たアリサはどんな子だと思う？
それは…
頑張り屋だと思います 色々な意味で
ああ そうじゃな

見ての通り器量良しじゃし貴族の子女にも負けぬ振る舞いや教養を身につけておるじゃろ？
そうですね 正直 凄いと思います
ですが…
人に頼らずに何でも一人で解決しようとする… そんなところがあるじゃろ？
ええ…… そんな風には感じていました
義理堅くて人には親切で
でも 自分のことは人に頼らず 全て一人で抱え込もうとする……
——アリサ・R ルーレ市からやって来たわ
そその勿体ぶってるわけじゃ……！
ただ あまり周りに知られると面倒な事になるかなって……
多分 あの子のそんな性分はワシと…
娘の仲が原因なんじゃろう
……！

ワシが所在を告げなかったのもそのあたりが原因でな
まぁ これ以上はワシの口から言うわけにはいかん
お前さんが孫娘とイイ仲になれば自然と教えてくれるじゃろ
いい仲って…何か誤解していませんか?
おや 違うのかの?
手紙でお前さんの名前を見たからてっきり何かあったかと思ったが
い いや その…ちょっとしたアクシデントはありましたけど
ほう アクシデントか!
登校途中にパンを咥えたあの子と曲がり角でぶつかりでもしたかの?
……
それで偶然ムフフでラッキーな体勢になったりしたとか!
おおっ!? 本当に何かあったのか!?
それは詳しくえぐり込むように聞かせてもら……
もうっ! お祖父様!!

ん!… あれって…
シカンガクインの人たちだ!
何でこんな所にいるんだろ?
まいっか なんだか面白くなりそうだし♥
それじゃあガーちゃん任務開始しちゃおっか♪

いや～ 何というか 驚いたね
あのグエン・ラインフォルトが こんな場所で 暮らしてたなんて
わいわいわい
ラインフォルト と言えば 昔は 火薬を使った 銃や大砲を手がける 武器工房という イメージだったが…
いつの間にか 鉄道や導力兵器を 大々的に手がけて いたような印象だな
ああ 実際 ラインフォルトは 帝国だけじゃなく 大陸諸国でも 手広く販路を 拡大しているし…
その意味では 帝国では珍しい 「国際人」とも言える かもしれないね
わっはっは
なるほど… 物知りだとは 思ったが そこまでの人物 だったとは…
しかし その彼がどうして 会長を辞めたのかは 謎なんだよな
一説には病気と 言われてたけど
全然元気 そうだし…
こりゃあ あの噂の方が 正しかったの かもしれないな
あの噂？
おっと 何でもない
ゴシップ みたいな ものだよ
アリサ…？
……
ほーら アリサ すっごい風景 じゃろう！
うん すっごいね！
バカみたい 一人で 空回っちゃって…

ほらほら 2人とも 予定が 押してるんだから さっさと行くわよ
いいじゃないか 滅多にない休暇だ 君も少しは 羽を伸ばすといい
ガチャ
…アリサ
!
リィン……!
大丈夫か？ 少しフラついてる みたいだけど
べ 別にちょっと ぼうっとしてる だけで……
少し風に 当たれば……
!
一日中 馬に 乗ってかなり体力を 消耗したんだろう
ほら 言わん こっちゃない
ご ごめんなさい…

そっか… そうよね
…そんなことも 自分で気付かな かったんだ…
アリサ
風に当たるなら 俯いているよりも 空を見上げて みなよ
え…？
あ──

―― 8年前だったわ 技術者だった父が 亡くなったのは
それをきっかけに 私の家は大きく 変わってしまった
当時 取締役だった母は 事業拡大に没頭 するようになって…
「家族」を ほとんど顧みなく なったわ
一緒に食事できる 機会すら3ヶ月に 一度あるかどうか…
代わりに一緒に いてくれたのが お祖父様と シャロンだったの
貴族の子からは 疎まれ 平民の子からは 特別扱いされて 友達は少なかった けど…
2人が居て くれたから 少なくとも寂しくは なかったわ
お祖父様は乗馬や バイオリンなど 色々な趣味の 手ほどきを してくれたし…
シャロンからは 護身術や弓の扱い 貴族の子女並みの 礼儀作法を教わった

いっぽう母は…… 会長である祖父の 意向を無視して 際限なくグループを 拡大していった
元々 かなり大きな 技術工房では あったけど…
ここ数年 ウチが作ってきた ものを考えると さすがに行き過ぎ としか思えない
ここ数年…?
聞いたことくらい あるでしょう? 帝国東部 ガレリア要塞に2門 設置されている 《列車砲》のことは
!
列車砲… 何でも世界最大の 長距離導力砲 だとか…
共和国と 領有権争いをしている 《クロスベル自治州》の 全域をカバー
たった2時間で 人口50万もの クロスベル市を 壊滅できる… 恐ろしいほどの 破壊力よ
……とんでもないな 戦争というより 虐殺にしか 結びつかないと 思うんだが…
ええ…私も そう思う
CROSSBELL STATE

受注したのは母だけど
祖父は何というバチ当たりな兵器を造ったんだろうって悩んだみたい
取り締まり役だった 母の裏切りにあった
え――
そして 帝国軍に2門の列車砲を引き渡すか迷っていたところで……
ラインフォルトグループの大株主全員を味方に付けたのよ
お祖父様は退陣を余儀なくされ…母の新会長への就任が決定した
お祖父様は…私を残してラインフォルトを去った
味方だと思っていたシャロンも雇い主である母に従うだけだった
それが――5年前の出来事よ
……アリサは…
納得がいかなかったんだな?
お母さんのした事というより「家族」が壊れてしまったことが
!

ええ…そうね
実の親を陥れた母様も それをただ受け入れたお祖父様も 私は納得いかなかった
あれだけ優しかったシャロンが何も言ってくれなかったことも
RFグループ…その巨大な存在の前では家族の絆なんて意味がないなんて
…絶対に認めたくはなかった
だから私は――実家を出て士官学院に入ったのかもしれない
でも結局全然母と家から逃げられてなくて
お祖父様は飄々と第二の人生を楽しんでるし
ゴロン
私 一体何やってるんだろうって少し滅入ってたけど…
スッ…
でも
この星空を見上げたら――どうでも良くなっちゃったわ

やっとわかった
気がする……
どうしてお祖父様が
この地に移り
住んだのかを
……
そっか……
ゴロ
やっぱり
アリサは
強いな
こうして俺に色々と
話してくれたって
ことは……
ス
たぶん 前に
進めるきっかけが
掴めたってこと
だろう？

……
ふふっ
…そうね
だとしたら
それはきっと
士官学院に
入ったからだと思う
Ⅶ組のみんなや
部活のみんな……
本音で
向き合える仲間と
出会えたから
私は強くなれた
だから──
ありがとう
心配してくれて…
空を見上げろと
言ってくれて
ふふっ
だろうと
思った
はは…
どういたしまして
…白状すると
追ってきたのは
委員長に促された
からでさ…
申しわけない
なんで俺が!?
いいけど…

……
私の事を強いって言ってくれたけど
貴方だって実習のリーダーとか色々と頑張っているじゃない？
俺が士官学院に入った理由……
あえて言葉にするなら「自分を見つけるため」
…いやまだまださ「自分」から逃げてるようじゃ
え……
——そう思っていたんだけど
本当は ただ逃げてるだけじゃないかって不安に駆られる時がある
家族からも自分自身からも——
……ご家族とあまり上手くいってないの？
いや
血は繋がっていなくても両親とも俺を慈しんでくれているし妹とも…仲は悪くないと思う
全部……俺自身の問題なんだ
リィン……
——でもそういう風に言えるっていうことは…
たぶん 前に進めるきっかけが掴めたってことでしょう？
!

……
ふふっ もらった言葉を そっくりそのまま お返しするわ
貴方 いつもどれだけ 恥ずかしい言葉を 臆面もなく 言ってるか……
少しは 自覚すると いいんじゃ ない？
はは… 参ったな
そうだな 俺も少しずつ 前に進んで 行けてるんだよな
学院に入って Ⅶ組のみんなや 同級生や先輩たちと 出会えて……
——こんな風に みんなと同じ時間を 共に過ごすことで
ええ この 特別実習だって きっと私たちの 糧になるわ だから——
こんな風に… みんなと…？
あー… コホン
・・・
!!?
あぁ あなた達！
なかなか戻って 来ないので 様子を見に 来たんですけど……
あははっ
いったい いつ からいたの!?
——でも そういう風に 言えるって いうことは……
たぶん 前に進める きっかけが掴めたって ことでしょう？
いやあああ やめてぇぇぇ
ふふっ… 思わずジンと きちゃいました
ああ… 悪いとは思ったが 良い場面に 立ち合わせて もらった
あれは…！ リィンの 恥ずかしい台詞を そのまんま返した だけで…っ！
ああもう！ なんで私が一番 恥ずかしい人に なってるの!?

ええい こうなったら あなた達も 加わりなさいっ！
恥ずかしい 青春トークを 一緒にぶちまけて もらうわよ！
お疲れだったな
いや こちらの方が 力付けてもらった くらいさ
——なあ ガイウス
ああ… そうだろう？
ええっ!?
フン お断りだ
本当に—— いい所だな
特別実習３日目　朝
さて—— 今日の実習だが
昨日よりも 依頼の数は 絞らせてもらった
ご配慮 ありがとう ございます
残る1日は ある程度君たちの 好きなように過ごすと いいだろう
ラカン！ ラカンは おるか！
バタ バタ
長老…？

ゼンダー門から 先ほど連絡が あった
どうやら 帝国軍の監視塔が 何者かの攻撃を 受けたらしい
!?
なに…!?
今日の 真夜中の話 らしい
しかも…
どうやら 共和国軍の基地も 攻撃を受けた らしくてな
これは少々… 騒がしく なるかもしれん
両国が受けた謎の攻撃とは——!?

特別実習２日目 深夜
帝国監視塔
THE LEGEND OF HEROES
閃の軌跡
第15話
原作：日本ファルコム（『英雄伝説 閃の軌跡』）
脚本：恵村まお
漫画：さがら梨々
おおい…！
なんだ…？ あれは……
オオオ
共和国軍が襲われている…？
どこかの師団が動いてるってことかよ!?
馬鹿な!? そんな話は聞いてない！
ズガガガ
くっ… とにかくゼンダー門に連絡を——！
タッ
……え
ヒュルルル
うわぁぁあっ!?

ヒュルルル
一体…どこから——
ゴオオオ
て 敵襲!?
ズガガガ
次の日 朝……
あっちが第三機甲師団の軍用飛行機で…
え〜と
ゴオオオ
そっちが共和国軍の空挺部隊か〜
オオオ
ピリピリしてるな〜
ガサッ

ゼンダー門にも導力装甲車が集まってるみたいだし
それも当然かぁ
帝国と共和国が戦争を始めちゃうかもしれないんだもんね
さてお仕事お仕事

共和国お得意の空挺機甲師団の先駆けか
戦車部隊が到着するのも時間の問題のようだな…
中将…!
おぬしら…!
被害は…
こちらはどのような状況なのですか!?

――
それより おぬしら
今すぐ ゼンダー門に 向かえば 貨物列車の 時間に間に合う
今回の実習は 切り上げてそれで 早めに帰るがいい
ええっ!?
共和国軍の 出方しだい だが……
あと数時間も しないうちに 戦端が開かれる 可能性は高い
クッ だからと 言って…
こんな 中途半端な 形で帰るわけ には…!
…中将
今回の一件 どちらが先に 手を出したの ですか?
ガイウス…!
……調査中だ
もちろん先にも 後にも帝国軍が 動いた事実はない
にも関わらず 監視塔は破壊され 守備兵からは 死傷者も出た
ゼンダー門を 任された者として このまま見過ごす 訳にはいかん
仮に共和国軍の 偽装工作だったと してだが
あちらの基地の 被害はどの程度の ものだったんだ?
幾つかの施設に ダメージを 受けたようだ
被害は こちらと同等 …いや
遥かに 上には見えた
そ それって…?
どう考えても 何かが おかしいと いうことでは!?
だが もはや悠長に 様子を伺う時期は 過ぎている
全面戦争は 避けたい所だが ある程度の衝突は 覚悟の上だ
我らにしても 彼らにしてもな
……
でしたら 中将
どうか 今回の事件の 調査をオレに お任せください
!

ガイウスさん…!?
ちょ 調査って…
ご存知のようにこの一帯ならばオレの知らない所はありません
ノルドの静けさを乱す今回の不可解な事件…
必ずや原因を突き止めてみせます
お前……
ゼクス中将
……
及ばずながら俺たちも力になります
!
いや 待ってくれ これはノルドの…オレの故郷に関する問題だ
戦が始まる前にせめてお前たちだけでも――
水臭いですよ ガイウスさん

アルバレアの名に懸けて…尻尾を巻いて逃げ出す無様を晒すわけにはいかないからな
私だって身内がこちらにご厄介になってるのもあるし
それにガイウス自身帝都駅で言っていたことだろう?
フフ 一本取られたなガイウス
『全員が無事に戻ってくるのが何よりも重要だ』って
……
現在10時5分――12時半までの調査を許可する!
それまでは戦端が開かれぬようこちらも力を尽くしてみよう
はいっ!
皆……ありがとう
本当にいくら感謝してもしきれないくらいだ

お大げさねぇ
そうですよ同じクラスの仲間でしょう?
フン…まあ色々とこだわりがあるみたいだな
故郷の危機を食い止めたい…単にそれだけじゃないんだろう?
誰もがそうだとは思うが……
……ああ中将の推薦を受けて士官学院に入ったことにも関係していてな
オレは故郷の地を愛している
風渡る高原を
高き山々を
蒼き穹を
日の出の神々しさを夕陽の切なさを
全てを許してくれるような綺羅の夜空を
ノルドの地の全てを…愛してるんだ
……
わ私も故郷のルーレには思い入れがあるけど…
愛しているとまでは言えるのは…
さすがガイウスさん…
しかし…ならばどうしてこのノルドの地を離れたんだ?
正直お前のような男が故郷を離れて入学したのが不思議なくらいだが
オレ自身――明確な答えが出せているわけではないが…
オレの幼い頃共和国軍の基地が東に築かれ
帝国軍が監視塔を建ててから……
それは少しずつオレを不安にさせた
教会の巡回神父からは大陸の歴史を色々と教わった
そして大国同士の争いで消えた民族がいかに多いかに驚かされた
そして《導力革命》――
あらゆる生活と文化に影響し"時間"と"距離"の概念を大幅に覆してしまったあの発明…
それを知った時気付いてしまった

オレが愛しているノルドの地が平穏であり続ける保障はない…
いずれ「外」の大きな流れに巻き込まれる可能性があり得ると
!……
驚いたなそこまで考えていたのか…
それでガイウスさんは大切な故郷をとりまく「外」を知るために士官学院に…？
ああ…きっかけは多分な
あの時のオレは何か得体の知れない矛盾に怯え 焦っていたんだと思う
中将と知り合ったのをきっかけに《トールズ士官学院》の事を知って……
そこに推薦してもらえると聞いて気付いたら申し出に飛びついていた
…帝国がどういう所なのかほとんど知らなかったというのにな
どうやら俺たちの誰よりも大それた理由で来たようだな？
確かに故郷を愛し守るためにいったん外の世界を知るか…
正直帝国人には出てこない発想でしょうね
でもそっか…そういう事だったのね
フン…まったく
そういう事ならなおさらだな
お世話になったこの地に報いるためにも今回の事件何としても見極めないと…！
帝国にとってこの地は大切な隣人でもある…協力させてもらうぞガイウス
ああ――よろしく頼む！
さて……一通りの場所は調べ終わったようだ
ここらで情報を整理してみるか
まずはこの監視塔が砲撃を受けた時刻は午前3時頃――
同時刻に共和国軍基地も攻撃を受けている
さらにそれを行ったのがどちらかなのかという疑問は宙に浮いたままなんですよね
そして砲撃に使われた兵器…
導力迫撃砲のことね

落ちていた導力弾の破片を調べたけどRF社製の可能性が高いわ
あれが共和国軍に配備されているとは考えにくいのだけど……
だとしたら考えられる最も高い可能性は
……どちらでもない勢力――か
共和国にはRF社にも劣らない大規模な導力メーカー『ヴェルヌ社』があるからな
!
それって……!
帝国と共和国の間には常に一定の緊張状態がある
だがこのノルド高原は他の政治的な意味を持つ場所に比べれば平和な方だ
その均衡を昨晩になって崩す理由は無かったはずだ
確かに…
た
だが現時点ではそれよりも重要な疑問点がもう一つ残っている
そうか……!
どこから砲撃が行われたかだな?
うーん……さすがにそれを割り出すのは難しそうだけど…
だが それを示さない限りは今までの推理は意味をなさない
とても戦争を止める口実にはなり得ないだろう
しかししらみつぶしに探そうにもノルド高原は広すぎる…
――いえ
もしかしたら何とかなるかもしれません
アリサさんとガイウスさんの力をお借りして計算していけば……
えっ……!?
――うん解りました
砲弾が発射されたのはここから南の方角みたいですね
地図で言うと…だいたいこの範囲になります
ばさっ
この監視塔がある場所からもそう遠くはないですね

……
ん？
監視塔の被害があった場所と砲弾の速度や描く軌道……
そこにノルドに吹く風がどの程度の影響を与えるのか…
それらをあわせて考えれば大体の位置が割り出せる…か
さ さすが委員長…
フンレーグニッツが躍起になるのが滑稽にすら思えてきたな
ああはは…そんなことは
…よしすぐにでも向かってみよう
ああ！
エマが示したのはこの辺りかしら…
みんなあれを！

あれは…
縄梯子…？
こんな所に…？ちょっと怪しいわね
しかしさすがにあの高さには届かないな…掴まれるような場所もないし
ごにょごにょ
えっ私の弓で!?
あの縄梯子をまとめている紐に上手く当てられたらって…
──はっ！
さすがに無理がある気がするんだけど
まあ他に手もないことだし

（落ちろ）
……Cadite.
ああっ…
あ…!?
できた…?
はずしたと思ったけど…
フフ 見事な腕だな
でもなんだか妙な時間差があったような…
さすがはアリサさんですね!
あっ!
あれは…!
……
…なるほど 周囲からはちょうど死角になっている
闇に紛れて砲弾を発射し そのまま放置して逃げた…… そんなところか
導力迫撃砲… 思った通り RF（ウチ）の旧式だわ
つい最近 使われた形跡も ある…
だが…戦争を 回避するには これだけでは 不十分だ
そうだな もう少し 手がかりが 欲しいけど ここは一旦 中将に報告に…
ユーシス! 委員長!
あ…あれを!
えっ…!?

あ…!?
あれは…! バリアハートで見かけた…!?
飛んでる…? な 何なのあれ…!?
あれがリィンたちが見たという…?
このタイミングで現れるなんてさすがに無関係とは思えない…
追いかけましょう!
急いで馬に乗れ!
んー…
これで大体の状況は掴めたかなー
どうしよっかな… 制圧するだけならカンタンだけど逃がしちゃう可能性もあるし
かといってミナゴロシにするのもさすがにカワイソウだしなぁ
ーザッ
ー動くな!
!?
俺たちのことを…!?
あ… シカンガクインの人たち!
貴様… 一体何者だ!?
そ その大きなものは一体……
ええっ!? ち 違うよぉ~!
君は軍の基地が攻撃されたことに関係しているのか…?
なんかロコツに疑われちゃってる!?
はっ

そっかぁ その手があったか!
キミたちが手伝ってくれれば万事解決! オールオッケーだよね?
キミたち結構強いし!
なに…!?
強い…?
貴様… バリアハートで俺たちのことを見ていたな…?
2つの軍事施設への攻撃… 貴女の仕業なの!?
だ だから違うってば～!
ああもう何て説明すればわかってくれるんだろ……
話せる範囲まででも構わない
君が知っている情報を教えてくれ
リィン…!?
だったら
オレたちの力が必要と言ったな?
この地の平穏を取り戻せるならいくらでも力を貸そう
だから—— どうか話してほしい
ギャア
!……
ふふっ…
手伝ってほしいのは監視塔と共和国軍の基地を砲撃した……
武装集団の拘束だよ
ええっ…!?
ボクはミリアム・オライオンだよ
こっちは"ガーちゃん" 正式名称は《アガートラム》
ヨロシクねっ♪
謎の少女が事件の鍵を握る——!?

THE LEGEND OF HEROES
閃の軌跡
第16話
原作：日本ファルコム（『英雄伝説 閃の軌跡』）
脚本：恵村まお
漫画：さがら梨々
共和国軍の基地を砲撃した武装集団…!?
その拘束を手伝ってほしいって…
あの迫撃砲を見たでしょ？
同じ物が共和国軍の基地から少し離れた場所に隠してあったんだ
ま 同じ連中が仕掛けたんだろうね
どう？手伝ってくれるならそいつらのところに案内してあげるんだけど
居場所もわかっているのか…？
リィン…
――わかった 一度ゼクス中将に連絡を入れてからそこへ向かおう
決まりだね☆

その前に…
オーロックス砦の侵入についても色々と話してもらいたいものだが？
あぁあはは…ボクたちに気付いてたんだ
それはそれ
これはこれ
で いったんオネガイシマス
フン 調子のいい…
まぁまぁ
えへへ
とにかくよろしく☆
高原北　石切り場
…せーのっ！

この建物の奥に武装集団が潜伏しているはずだよ
パラ…！
パラ
1時間くらい前あの高台の入り口から梯子で何人か入るのを見かけたんだ
……
ここは…なんだか寂しい場所だな
石切り場
《悪しき精霊》が封じられているという千年以上前の巨石文明の遺跡だ
《悪しき精霊》何だか物々しい言い伝えですね
ねねぇその銀色の……
さっきから出したり消えたり…本当にどういうものなの？
んーキミツジコウかな
機密事項ですか
…フン
そんじゃ出発進行〜!!
…どうもここの魔獣は今までと違う感触だな…
そうね導力魔法の効き方がいつもと違うというか…
どうやらこの場所では〝上位属性〟が働くみたいですね
地・水・火・風の4属性のアーツで魔獣の弱点を突けることは皆さんもご存知だと思います
この場所では それに加えて時・空・幻の上位3属性が有効になっているみたいなんです
でも エマよく気付いたわね？
えっと…あはは何となくの考察ですから
ふむ…先ほどからここに漂っている妙な風の正体はそれか
〝上位属性〟…
今までと勝手が違うなら気をつける必要がありそうだな
よくわかんないけど邪魔なものはガーちゃんがなんとかしてくれるって！

石切り場　最奥――
おい！
ここまでやればもう十分だろうが…！
とっとと残りの契約金も渡してくれよ！
フ…そうは行かない
契約内容は帝国軍と共和国軍が戦闘を開始するまでだったはずだ
もし膠着状態が続くようならもう一押ししてもらう必要がある
チッ…面倒だな
だが前金だけで500万ミラ…
ああもう少し我慢すりゃ莫大なミラが…
しかし《G》と言ったかどうしてアンタらはそんなに羽振りがいいんだ…？
我々の詮索をしないことも契約条件に入っていたはずだ
何だったらこの場で契約を打ち切っても構わないが…？
ちょちょっと待てって！
ミラさえ出してくれりゃあこっちは大人しく――
な…っ
――させるか!!
なんだこのガキども…!?
トールズ士官学院《Ⅶ組》の者だ！
監視塔共和国軍基地攻撃の疑いでアンタたちを拘束する！
お前たちは…
フン そうかケルディックでの仕込みを邪魔してくれた学生どもだな？
ま まさか…！
フフ あの野盗たちを雇っていたのは領邦軍ではなくこの私だったというわけさ
我が名はギデオン！
同志たちからは《G》とだけ呼ばれているがね

ど 同志…?
問答は無用だ
この地に
仇なすのならば
全力をもって
阻止させてもらう
かわいそうだが
遠き異郷の地で
若き命を散らして
もらおうか
ざっ
ジャキン
フン
知られた以上
生かして帰すわけ
にはいかん
こいつら…
ガーちゃん!
!?
うっ
うわぁ!?
ぐっ…
ぎゃっ
な…何なんだ
この化け物は…!
す
すごいな…
あっという
間に…
むー
化け物だなんて
ヒドイなぁ
クク…
なるほどな
〝子供たち〟の
一人という
わけか
…へー
銀色の
傀儡使い…
通称《白兎(ホワイトラビット)》
ボクのこと
知ってるんだ?

ああ 貴様が
ここにいるなら
絶好の機会…
この場にいる
全員ごとあの世に
行ってもらおうか！
スッ
ピィィ
〝笛〟…!?
何の
つもりだ…？
ィィ…！
な
なんだ…？
カサ
足音…？
ザザ
皆！
上だ!!
え…!?

ズザァ
!?
ガサッ
ここいつは…
まさか言い伝えの
《悪しき精霊》…!?
この石切り場の
ヌシという
ことか…！
どうやら太古から
生き残っていた
魔獣らしいな
目覚めたばかりで
空腹らしいから
全員エサになって
やりたまえ
それでは───
よき死出の旅を

ぴょんっ
あ 逃げた
た 助けてくれ…！
がさささっ
チャキ
くっ… 今は後回しだ！
上位属性魔法が効くのなら…
スッ
シルバーソーン!!
カッ
よし…！ 俺に任せてくれ

ノルドの大地 そして Ⅶ組の皆――
俺に力を貸してくれ!!
ぎゅっ
カラミティホーク!!

ゼンダー門　15：00――
Ⅶ組諸君
武装集団の拘束……大変ご苦労であった
しかし…
武装集団について共和国軍に連絡したがやはり信じてはもらえなかったようだ
…無理もない 向こうの被害はこちらよりも遥かに大きいからな
！
だ だからといって…！
で では共和国軍側は…
うむ 空挺機甲師団が出撃準備を完了したらしい
そんな…
クッ 何らかの交渉ルートが確保できれば話は別だが…
……戦闘は避けられぬだろう
結局 あの眼鏡のヒトには逃げられちゃうし
捕まえた連中も何も知らずにただ雇われてただけだったしねー
……
というか…あなた 本当に何者なわけ？
あの眼鏡の男に〝子供たち〟の一人って言われてたけど
それと…《白兎（ホワイトラビット）》と言ったか
フン どう考えても怪しげな背景がありそうだ
……
んー どうしよっかなぁ
あんまりショゾクを表立って明かすなって言われてるんだけど
もじ…
!?
〝所属〟…？
――まその想像は間違ってないと思うぜぇ？
あっ！レクター！

も～遅いよ～！
ぷん ぷん
スマンスマン ちょいとクロスベル方面に出張してたもんでな
ああ あの恐いヒトたちの事務所を用意するってアレ？
おっ それそれ
どどなたでしょう…？
？
…フム 軍服は着ておらぬが我らと同じ立場のようだな？
わし わし
──は その通りです
帝国軍情報局特務大尉
レクター・アランドールであります
共和国軍との交渉ルートを担当するため参上いたしました
スッ
ええっ…！
《帝国軍情報局》…
レクター特務大尉… 色々と噂は聞いているが任せてしまってもよさそうだな？
ええ 既に共和国政府との交渉には入っております
宰相閣下… ギリアス・オズボーンか
再来月の《通商会議》に向けて無用な対立は避けたい… 宰相閣下の意向でもありますので
《鉄血宰相》と呼ばれる革新派のリーダー的存在……
えへへ 顔はコワモテだけど結構楽しいオジサンだけどね♪
──ま そういうワケなんで 後は情報局に任せときな
そうそう このガキンチョが世話になったみたいで感謝だぜぇ～
わしゃっ
わしゃ
ぶーぶー ガキンチョ言うな！
──それじゃあ みんな バイバイ♪
すっごく楽しかったから また会えると嬉しいな！
えっ…

おおい……
ちょっと…!
スタスタタ…
正規軍の情報機関ですよね？
フン 情報機関と言うより諜報機関と言うべきだろう
《鉄道憲兵隊》と並んで各地の領邦軍からは最大限に警戒されている組織だぞ
やっぱりそうか…
な なによもう…あっさりと行っちゃって
《帝国軍情報局》…
でもあんな小さい子が軍の機関の所属なんて……
…なるほどな 今のが宰相直属と言われる《鉄血の子供たち(アイアンブリード)》か
《鉄血の子供たち(アイアンブリード)》…
噂では宰相閣下が拾い上げた特別な才能を持つ若者たちらしい
情報局や鉄道憲兵隊に所属しながら閣下の意を直接受けているみたいでな

…よし
第三機甲師団を第二種警戒態勢へ
哨戒中の飛行艇は全てゼンダー門に帰投させせよう
中将…!
《かかし男(スケアクロウ)》……それがあのレクター大尉の異名だ
噂ではこういった非公式の交渉のほぼ全てを成功させてきたらしい
宰相殿も動いているようだし 何とか抑えられるだろう
キッ
……これで何とか戦争は回避できるはずだ……!

ラクリマ湖畔 19:00 ——
同志《G》——お疲れだったようだな
同志《C》…
リーダー自らわざわざ出迎えとはな
なかなかの戦果だったようだが
…フン 慰めは結構だ
本来なら共和国との紛争が始まり〝あの男〟の隙を作れたはず…
ぎりっ…
それがこの体たらくだ
フッ しかしこの結果すらも我々にとって今後有利に働く…
あらゆる所で〝楔〟を打ち込まれるリスクを意識させることでな
《氷の乙女(アイスメイデン)》にも《かかし男(スケアクロウ)》にも読み切ることは叶うまい
…違いない
さっそく〝次〟の一手の仕込みに取り掛かるとしよう
いよいよ我らの存在を世に知らしめるためにもな
フフ その調子だ
ゴォオオオオ
……
やれやれ…何とかなったみたいね
A班のメンバーも無事だし戦争も何とか回避できたし……
ま 情報局の連中が出張ってきたのは驚きだけど

漆黒の高速飛行艇…ラインフォルトの最新型ね
軍の偵察機や貴族や資産家の道楽に使われてるみたいだけど…
…そのあたり心当たりはないのかしら？
……
ふふっ
…本当にサラ様はお鋭くて困ってしまいます
よくわたくしの気配にお気づきになりましたね？
よく言うわ半分くらい試してたくせに
それにちょっとばかり気配に心当たりがあったから
2・年・く・ら・い・前・の事件とか
2年前…？
？
…まあいいわ それよりも本当に知らないのね？今の高速飛行艇の出所
残念ながら…RFグループの製造記録には載っていない船のようです
あ・く・ま・で表面上ではですが
フン…色々あるみたいね
あたしはこれから集落の方に顔を出すけど…アンタの方はどうするの？
大旦那様への挨拶もありますしご一緒させていただければ
何よりもアリサお嬢様の驚くお顔も見られそうですし♥
シャロンさん!?
なんでいるのおおお!!?
あの子も大変ね…
次の日　朝——
皆さんお世話になりました
本当に……何てお礼を言ったらいいか
また休暇の時にはこちらへ戻ってくる トーマ それまでみんなのことを頼んだぞ
びえ
私 今回の実習のことをずっと忘れないと思います
ああ 目に見えぬ色々なものを貰ったような気分だ
ガイウスあんちゃん…みんな…
ああもうリリ…ベソをかくなって

お祖父様…やはり当分の間お戻りになる気はないんですね
うむ
娘の采配もそうじゃが…
ラインフォルトを取り巻く環境はここ数年であまりに大きく変わりすぎている
〝中〟のことは娘に任せた
ワシは〝外〟からラインフォルトの進むべき道を見極めさせてもらおう
お祖父様…
《トールズ士官学院》はとてもいい環境だと思うぞ
様々な立場の仲間たちと協力し共に壁を乗り越えることで…
今まで見えていなかった風景が見えてくる可能性もあるじゃろう
今回の一件のようにな
……はい 私も──お祖父様や母様とは別の視点を持ってみようと思います
ラインフォルトの名を継ぐ者として──何よりも
私が私であるために
うむ よく言った
──そろそろ列車の時間だ
はい…中将もお元気で
あんちゃん！皆さんさようなら！
びええぇん
ぐすっ…
さようなら！
風と女神様の導きが貴方たちにありますように
ザァ
健やかに──また会える日を楽しみにしている
ザザ
はい…！
皆さんお元気でさようなら…！！
この地で得た大切な思いを胸に──！
巻末のコミックス第2巻情報と第7話再掲載も要チェック！←

帝都ヘイムダル　皇城 バルフレイム宮
THE LEGEND OF HEROES
閃の軌跡
第17話
原作：日本ファルコム（『英雄伝説 閃の軌跡』）
脚本：恵村まお
漫画：さがら梨々
帝都政府 宰相執務室
共和国政府との交渉は完了
ノルド高原における戦闘状況は完全に回避されたとのことです
ですが実行犯はともかく〝彼ら〟のひとりは取り逃したままです
フフ ここまでの仕掛けをされては我々も慎重にならざるをえまい
まずは帝都の《夏至祭》…〝子供たち〟をどう動かすべきかな？

…恐らく本命は来月の《通商会議》と思われます
レクターさんは〝東〟に ミリアムちゃんは〝西〟に
帝都は私が受け持つのが最善の対応ではないかと
同感だ
…ふふっ
閣下は私に甘すぎます
ならばそれで行こう よろしく手配してくれたまえ
この程度の状況分析と配置 お試しになるには簡単すぎるかと
了解しました
コンコン
失礼します
ガチャ

これはクレア大尉
ご無沙汰しております
先月の帝都庁での記念行事 警備を回してくれて助かった 改めて礼を言わせてもらうよ
恐れ入ります …では私はこれで
さすが〝子供たち〟の筆頭…
領邦軍から《氷の乙女(アイスメイデン)》と畏れられているだけはありますね
フッ…筆頭は彼女ではないがね
だが彼女も含め全員よくやってくれている
老獪なる大貴族ども……《四大名門》の古狸を相手に
我々も負けずに腹を括って事に当たる必要がありそうですね
フフ……そう言ってくれるとありがたい
帝都ヘイムダル知事——カール・レーグニッツ閣下
こちらこそ
エレボニア帝国政府宰相ギリアス・オズボーン閣下

同バルフレイム宮 皇族専用テラス
なるほど…だから兄上が通商会議に参加されるんですね
ああ 来月クロスベルで開かれる西ゼムリアにおける初の国際会議と言ってもいい
エレボニア帝国第一皇子 オリヴァルト・ライゼ・アルノール
《西ゼムリア通商会議》…
カルバード共和国からはロックスミス大統領
レミフェリア公国からは国家元首であるアルバート大公
リベール王国からは 女王代理のクローディア王太女
主催地クロスベル自治州からは クロイス市長とマクダエル議長
いずれも各国のトップかそれに準じる人間が参加する予定さ

エレボニアからは帝国政府代表のオズボーン宰相…
本来なら国家元首の父上が参列する場なので皇族である兄上が同行するわけですね！
面目ないです兄上に教えていただくまでそんな事情も判らないなんて
…兄上に比べたらまるで勉強不足で力も機転も全然足りなくて…
こんな僕がいずれ父上の跡を継いでもいいのか…
…フフ
同じようなことをリベールのクローディア殿下も仰っていたよ
彼女も王太女という次期女王の立場を継ぐにあたり相当迷い悩まれたそうだ
え……
しかし己の力不足を受け止めた上でそれでも前に進む決断をなさった
我が弟にもそれと同じ事ができないとは決して思わない
兄上…
あらぁ〜？
兄様はセドリックをずいぶんと買われてらっしゃるのね〜？
あ…アルフィン！
もちろんアルフィンも私の自慢の妹だよ
そういえば今度の夏至祭で行われる園遊会で一緒に踊る相手は決まったのかい？
アテはあるのですけど上手く誘えるかどうか…
ええっ!? いつの間にそんな相手が…？
ふふ♪
そこで兄様にお願いがあるのです聞いてくださいます？
このことは当日までエリゼには内緒で進めないといけませんわね…
そういえば放課後見かけなかったけれどどこへ行ったのかしら？
聖アストライア女学院　屋上――
リィン兄様
っ……
ギュッ
どうして……

―7月中旬
トリスタの街は初夏を迎え士官学院では学生服が夏服へと切り替わり…
水練の授業も始まっていた
ピッ
ばしゃ ばしゃ
ラウラ…貴女ちょっと速すぎじゃない？
まぁ…水泳部員だしなこれくらいは
アリサさんも良いタイムですよ
ぷぁっ
むぅ…
今月から水練授業も加わって大変だけど
このハードスケジュールにも少し慣れてきた感じだな
エマはエマで羨ましいところがあるし…
来週水曜が実力テスト その週末が特別実習だっけ
ってことは帝都の夏至祭の時期かぁ…
うーん行きたかったな…
同タイムとは 君とはつくづく張り合う運命らしいな!?
俺は別に張り合ってるつもりはないが
エリオット？
おや リィン
そのアザは…何かケガでもしたのか？
あれ？ほんとだ うっすらだけど
…ああ これは昔からあるアザさ

ずいぶん前のものみたいでいつできたか覚えてないんだ
そうなんだ…
よく見たら細かい傷跡もいっぱいあるし…
いいなぁ引き締まってるし男の身体って感じがするよ
貴方は変に鍛えない方がいいと思うわよ…
確かにあまり見たくない気が…
むきーん♪
ザバッ
このタイム…そなたの本気ではないだろう
……なんで決め付けるの?
見くびらないでもらおう力の使い方を見ればわかる
…なぜだ?
ザバ
別に…めんどくさいだけ
……
やはり我らは〃合わない〃ようだな…
ペタ
ペタ

リィン…なんとかできないの?
な なんで俺が!?
明日の旧校舎調査ふたりを誘うか…?
いや…一緒は難しいだろうな…
翌日　旧校舎前――
…わからない
ノルドの地では〃資質〃を見せることはなかったけど…
ああもうアタシもついていけばよかったわ
どう考えても〃鍵〃として機能してる可能性が高いし
でも…
ピク
ザザ
セリーヌ?
へぇあの猫セリーヌって言うんだ
あっ…!リィンさん…

あれ？委員長ひとりか？
話し声がしたような
あっ
つっ通信機能でお友達と話してて…
便利ですよねーっ
旧校舎探索ですか？
私もご一緒させてください
第4層か…
…この昇降機先月は3層までだったけど
時の経過に合わせて徐々に解放されているな
この雰囲気は…
どうしたガイウス？
ノルドで…石切場で感じたのと同じような気配だな
ええもしかすると〝上位属性〟が働いてるのかもしれません
上位属性…
よし油断しないよう探索を進めよう……！
ふぅ…最奥はここみたいですね
時と共に1層ずつ解放される
そして下に行くほど魔獣も強くなっていく…
やはりこの旧校舎にはこういった〝法則性〟があるみたいだな
でも4月まではこんな事はなかったって学院長も仰ってたわ
なぜなのかしら…

……俺たちは何かの意思によって〝試されて〟いる…
ぎゅっ…
そんな気がするな
現時点ではわからないが調査を進めていけばきっと――
ブブズン。
!?
だっ
パラ…
な何だ…!?
昇降機まで戻ろう!
たったったっ…
こっ…
これは…!?
キキキキキキ
えっ――……?

赤い…
扉…?
カチカチカチカチ
こんなものさっきは無かったぞ…
どどうやって開くのかしら? 鍵穴っぽいものも見当たらないわ
それにこの歯車やゼンマイのような音は一体……
カチカチカチカチ
突然現れたってことか…
一体どうして…
カチカチカチカチ……
もしかしてこの先に
旧校舎の鍵を解く重要な手がかりが眠ってるかもしれないな…
ス。

っ……!?
ぐっ…
……む
胸のアザが……
… ……… …示セ… ……… …
ば
…?
どうした?
いや…
なんでもない…
ぎく
カッ
…………い
今のは……?
カチカチカチカチ
——とにかく
この扉は追々
調べていく必要が
ありそうだ
一旦 報告に
戻るとしよう
そうするしか
なさそうだな
カチカチカチカチ……
カツ
カツ…
……
今日は学院長は
不在だったわよね
ああ じゃあ
報告は後で
サラ教官に…
リィン・
シュバルツァー
…パトリック
ぺこ。。
学内の案内
ありがとう
ございました
こんなところに
いたのか
つたく手間を
かけさせおって
何…?
いいや
じゃあ僕は
これで…!
?
サラ…

お久しぶりです リィン兄様
エリゼ…!?
本当に 久しぶりだな 7ヶ月ぶりか…
ええ 去年の暮れ 私がユミルに 帰った時以来に なりますね
春 兄様がこちらに 入学してから 会える機会は あったはずなのに
妹の顔を見るのに その程度の時間すら 割けないほど お忙しかったということですね
ここまで一時間くらいですのに
わ…悪かった!
実習や私見で 忙しかったのは 確かだけど…… でも…
その…… 年末会った時に よそよそしかった 気がしたからさ
男兄弟が うっとうしく なったのかと つい 遠慮したというか…
よ、
よそよそしく なんてしてて ません!
あれはその ちょっと個人的な 事情があった というか…
と とにかく! 私が兄様を うっとうしいと思う なんて天地が ひっくり返っても ないです!
そ そっか… なら嬉しいけど
でもそれを言いに わざわざこんな 時間に…
これは… この前 俺が 送った手紙…?
この手紙の… 最後の部分 です…
卒業後は軍に行く可能性が高いし
そうでなくても家は出るつもりだ
その前に父さんと母さんには
親孝行がしたいと思っているから
そのうち相談に乗ってくれ
──それじゃあ また
くれぐれも身体には気をつけて
リィン・シュバルツァー

……「そうでなくても家を出る」ってどういうことなんですか…？
父様と母様に親孝行って どうして改まって言うんですか？
……
まさか…
家を継ぐつもりがないとかそんなわけありませんよね…？
俺はシュバルツァー家を
男爵位を継ぐつもりはない
――その まさかだ
当然のことだろう？
そ そんなのおかしいです！
そもそも俺は養子で血の繋がりなんてない
お前が将来婿を取って男爵家を継ぐのが筋のはずだ
たとえ血の繋がりがなくともシュバルツァー家の男子は兄様ただひとり…
帝国法でも養子の家督相続はちゃんと認められているはずです！
それは大抵引き取られた子が
しかるべき血筋だった場合だ
12年前――ユミル領主である父さんが拾った吹雪に埋もれていた〝浮浪児〟……
自分の名前以外は覚えておらずどういった出自かもわからない……
そんな子供を養子として迎えたばかりに父さんは社交界のゴシップの的になった

常識外れの酔狂だのよりにもよって〝隠し子〟だの……
『高貴な血を一切引かぬ雑種を貴族に迎えるつもりか!』なんて難癖をつけた貴族もいたらしい
そうして父さんはそういった雑音が疎ましくなってしまって…
ユミルから出ず滅多に社交界に顔を出さなくなってしまった……
これ以上 俺はシュバルツァー家に迷惑をかけたくない
さすがに貰った姓まで返すのは難しいだろうけど…
それでもお前の将来に迷惑をかけるのだけは避けたいんだ
来年は16歳——社交界デビューの歳だろう?
……!
だから どうか わかってほしい
家を出たとしてもユミルにはたまに顔は出すし育ててもらった恩はずっと…
……わかってない
え
兄様 全然 わかってない……
父様の気持ちも… 母様の気持ちも…
……わたしの気持ちも……
エリゼ…?
ダッ
兄様のバカッ…!
朴念仁! わからず屋! 大っキライ!!!

地下に眠るものが目を覚ます――!? コミックス第2巻は3月10日発売!

えっ
リィン君の
妹さんが…!?
こちらでは
見かけて
いないな
THE LEGEND OF HEROES
閃の軌跡
原作:日本ファルコム(『英雄伝説 閃の軌跡』)
脚本:恵村まお
漫画:さがら梨々
第18話
そうですか
……
大変…!
生徒会のほう
でも連絡網を
回してみるね!
あの聖アストライアの
生徒で流れるような
ストレートの黒髪か…
リィン君の妹だし
さぞかし淑やかで
器量のよい花の
ような美少女
なのだろう
ずいっ
屋上
で?
勝手に話を
聞いちゃったのは
謝るけど
早く追いかけ
なさいってば!
なんで皆いるんだ!?
見つけた者が
娶るという
ルールで
よかったかな?
もう!
アンちゃん!
みんなにも心配
されてしまったし…
早く探さないと
聖アストライア…
やっぱりさっきのは
見間違いじゃ
なかったのか
クロウ先輩!
クロウくん!
戻ってきたの?
へ~妹ねぇ
俺様のカンじゃ
ひとりっ子っぽい
気がしたんだが
なんか
さわがしいと
思ったら
ど どこで
見ました!?
ん~
旧校舎の方に
行ったように
見えたが…
いたた…
ここれ昇降機
だったのね
ずいぶん下まで
降りてきちゃった
けど……
猫は…どこに
行っちゃったの
かしら?
それに
この建物は
一体…
きょろ
カチカチカチカチカチ…

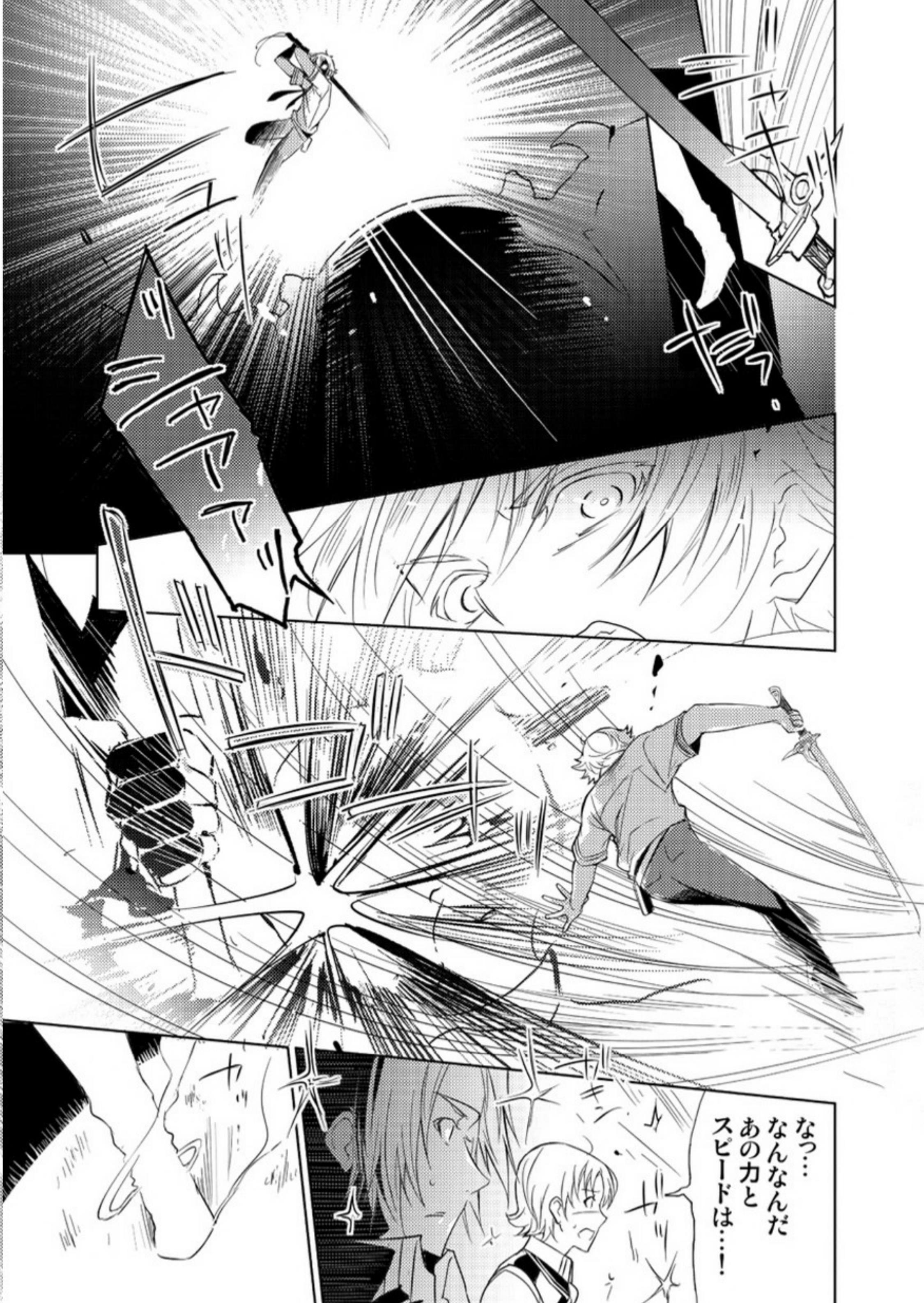
紅い扉…？
あまりに大きすぎるけど……
カチッ
――第四拘束解除後ノ"初期化"ヲ完了
《起動者》候補ノ波形ヲ50あーじゅ以内ニ確認
コレヨリ『第一ノ試シ』ヲ展開スル――
え……

ガシャーン
確かに旧校舎に行くのを見た気がしたんだが…
最後にもう一度挨拶くらい…
パトリック！エリゼを見なかったか？
リィン・シュバルツァー！
いや この辺りで見かけたんだが見失って…
彼女を捜しているのか？
…もしかして旧校舎の中じゃないのか？
で でも先ほど探索を終えて扉は施錠したばかりですが…

なんだ開いてるじゃないか
ガチャ
え…
どういうことだ…?
きゃああああっ
!?
悲鳴…!?
だだっ、
奥だ!
し…昇降機…?
ゴオオオオ
あ…!
いたぞ!
!
おおいエリゼさんの後ろにいる
……
あの甲冑はなんだ…!?

ズッ
!!
エリゼぇぇっ!!
なっ…!?
ひっひとりで危険だ!!

待て！リィン・シュバル…
だっ
ピタ…
!
お おい…？
グッ
ゴゴゴゴ
ギン
髪が……それに紅い瞳…？
ひっ…!?
こ……こいつは一体…!?


ミシャアアッ
なっ…
なんなんだ
あの力と
スピードは…！

ヨロ…
ウグッ…
……ッ
ピタ

ど
どうしたんだ…!?
"力"を…
抑えようとしてんのか…?
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
スゥゥ
ぐっ……
こ…これ以上…
呑み込まれてたまるか……
勝ち目はない…
でもやるしかない…
あの冬の日を…
自分自身を取り戻すためにも!
加勢するぜ後輩ッ!
俺がこいつを引き付ける…
二人がかりならいけるはずだ!
はいっ!!
二ノ型
疾風!!!

……
はぁ
はぁ
ったく……
はぁ
はぁ
こういう修羅場は半年前に卒業してるっつーのに……
はは…助かりました…
先輩もARCUSが使えるんですね
おう お前らVII組のための試験導入に参加してな
エリゼ…！大丈夫か!?
どこか痛む所はないか!?
トワやジョルジュゼリカたちとはその時からの付き合いってわけだ
にい…さま…
ええ…地響きに足を取られてしまっただけで…
それに…兄様が守ってくれましたから……
あの日みたいに…ううん
あの日とは違う形で…
エリゼ…
リィン大丈夫!?
ああ…何とか乗り越えられたよ
ふふ よかった…
っと どうやら揃ってご到着のようだな
扉から不思議な〝声〟？
はい
ふぅん…《赤い扉》に巨大な甲冑か…
こいつは…暗黒時代の魔導の産物のようだが…
『第四拘束』『起動者』『第一の試し』
そういった…断片的な言葉しか覚えていないんですが…

やっぱり〝何か〟がこの遺跡にはあるんでしょうか
まぁその可能性は高いわね
ここ…今後はもう入らない方がいいかもね
いい訓練の場になると思ったんだけど
謎の昇降機に加えて今回みたいな異常が起きたら今後も担任教官としてはさすがに…
ええ!?ここまで調査したのに!?
わたしは反対 実戦のカンを維持するには最適な場所
ああ…それにチームの連携を養うのにも向いている
俺も調査は続けたいです
わっ…わかった わかったわ
…やれやれ
学院長にも報告しておくから今日はもう上がりなさい
……
……
……

この旧校舎で何度か感じた鼓動…
この建物には〝何か〟がある
身体の方は大丈夫なのか?
それが判明しないまま調査が打ち切りにならないようにしたい…
あ…!
パトリック…
クロウ…先輩…
パトリック さっきは妹を見てくれて助かった
改めてお礼を言わせてくれ

…そ
その
さっきの俺の〃力〃は…
野暮なことは言いっこなしだぜ
フン 僕もみだりに広めるつもりはない
貴様とはきちんと決着をつけたいからな
あ……
あー…と ところで一点聞いておきたいんだが…
コホン
?
今週末の夏至祭で行われる園遊会に僕も出席するつもりなんだが
ん…? ああ 貴族や皇族の方々が集まる…?
その…
エリゼさんは出席されるのか…
聞いてたりは…
もじ もじ
え
なんでそんな事を訊く必要があるんだ…?
ゴゴゴ
っ…!!
おーおー青春だねぇ~
たっ他意はない!ちょっと気になっただけだ!
し失敬する!
ダッ
クロウ先輩も…助太刀ありがとうございました
クク
50ミラ分の働きはできたかよ?
…はは そうですね

特別実習前日 夜
リィンの部屋──
まさか次の実習先は全員が帝都とはな
【7月特別実習】
A班
リィン・ラウラ・フィー
マキアス・エリオット
（実習地:帝都ヘイムダル）
B班
アリサ・エマ
ユーシス・ガイウス
（実習地:帝都ヘイムダル）
僕とエリオットにとってはホームグラウンドでもあるな
帝都か…妹の女学院の場所だけは聞いているけど
そういえばエリゼちゃん無事でよかったよね
でもリィンってかなりのシスコンだったんだね
みんなでエリゼちゃんを駅で見送った時なんか…
──兄様
やっぱり私納得いきません
ザワ
ザワ

家督を継がない事もそのためにこの士官学院に入学したという事も
そしてそれ以上に兄様はまだ迷って…自分の道を見失っている──
そうではありませんか?
ザワ
ザワ
!
……
ああ…そうだな
だが〝今回〟は自分自身を取り戻すことが出来た
たぶん この学院に入ってから少しずつ前に進めているからだと思う
俺なりのペースで…みんなと一緒に協力しながら

父さんや母さん
もちろんエリゼにも
納得してもらえる
答えを出すつもりだ
だから…
歯がゆいかも
しれないけど
しばらく見守って
いてほしい
まもなく2番ホームに
帝都行きの旅客列車が
到着します
あ……
ぽんっ
!
パァァ…
なで
なで
近いんだし
すぐにまた会う
機会はあるさ
話の続きは
その時すれば
いい
兄様…!

わかりました
絶対です
からね……!
ここで
頭撫でる
とか…
は反則
気味です
ね…
ヒソ
ヒソ
はぁ…
まぁ
エリゼちゃんの方は
ブラコン以上って
感じだったけど…
そうか?
別に甘えてくる
わけでもないし
俺に対して
キツイ所も
あるし
まぁ仲は
悪くないと
思うけど
…うわぁ
自覚ないん
だ…
自覚がない
自覚が
ないぞ
あれは

そ、そういえば…
彼女は15歳だっけ 貴族の人って16歳が社交界デビューって聞いたけど
ああ あいつも来年社交界入りをするはずだ
いずれ良い相手に巡り合えればと兄貴としては思ってるよ
ぎゅう
生半可なヤツじゃ絶対に認めてやらないけどな
怖…
それにしても…
カサ
先々月の班分けといい俺…
むう
なんかダシに使われている気がするな
フッ 先月の班分けからお前だけが移るパターンか
教官にはごまかされるし……
しかし気になるのは彼女たちの件だな
ラウラとフィーか…
う～ん何とかできないかなぁ？
ポキ ポキ
僕たちの時と違って彼女たちはお互い弁えている
先月の実習にしたって良い結果とは言えなかったがトラブルは無かったからな
片や武門として知られる由緒正しい貴族の嫡女
片や猟兵団に拾われて育った戦場で生きてきた少女…
お互い全く違う世界で育ったわけか
アリサたちによればあのふたりはお互いの存在を〝戸惑っている〟みたいだな
うん 別に嫌っているわけじゃなくて納得がいっていないというか…
ああ もしかしたらそこに——
あっ!!
ばっ
リィン貸して！ラジオ貸してくれ！
ば

帝都近郊《トリスタ放送》より7月18日 夜9時のお知らせです
カチッ
――こんばんはミスティです
ああ《アーベントタイム》の時間だったか
金曜日だったな
ひと月遅れの帝都の夏至祭
あれ？もしかしてマキアスミスティさんのステッカー狙って投稿してる？
そ それは……！
何といっても皇族の方々が参加される初日の行事やイベントが……
そこは同意見だな
話が脱線したな……
やっぱり素敵だなーミスティさんの声
それに投稿がなかなか採用されないほど人気なのもわかる番組内容だ
特別実習1日目 朝
トリスタ駅前
あ……

おはようフィーちゃん
あれ？フィーの部活の部長さん？
フフ 見送りに来ちゃった
エーデル部長
そうか彼女は園芸部だったな
最近ちょっと元気がなかったみたいだけど…
フィーちゃんが花壇に植えた種 特別実習から帰る頃にはきっと咲いてるから…
楽しみに頑張ってきてね
……ん
フフ 気をつけていってらっしゃい♥
息
できない
むんぎゅ
……ああ 全力で務めるつもりだ

帝都・ヘイムダル中央駅
――次は終点 帝都ヘイムダルで ございます
どなた様も お忘れ物の ないよう……
ふむ さすがに あっという間 だったな
別に トリスタから 日帰りでも いいような
そ それを 言ったら おしまいだろう
今回は宿泊先も 聞かされて いないな
サラ教官が言うには 帝都駅に着いたら 〝案内人〟が 待ってるって…
ようこそ 帝都 ヘイムダルへ …時間通りですね
あっ… 貴女は!
クレア大尉!
ふふ 3ケ月ぶり ですね

この人が リィンたちが 言っていた…
フン 泣く子も黙る 《鉄道憲兵隊(T・M・P)》の 将校殿か
――やぁ 丁度よかった
え……!?
マキアスの父 カール・レーグニッツだ
帝都庁の 長官にして ヘイムダル知事を 務めている
よろしく頼むよ 士官学院 Ⅶ組の諸君――
と 父さん…!?
夏至祭で賑わう帝都…Ⅶ組の新たな実習とは!?